

国内2例目 難病手術へ

徳島大学病院(徳島市)は、全身が不随意的動きをする神経性の難病・ルーバック病にかかったフィリピン人男性患者の脳外科手術を15日に実施する。国内2例目、世界でも5例目で、今回の患者が最も

徳島大病院

重症という。手術は、同病院がフィリピンの国立病院と行っている共同研究の一環。



モンセラテさん

ルーバック病と同様に不随意運動を起こすという。症状がさらに悪化すれば、生命の危険もあるという。

徳島大学病院によると、ルーバック病は、遺伝性の病気で、フィリピン人を母親に持つ男性に発症する特性がある。患者数は東南アジアを中心に数千人といわれる。手術を受けるのはマニラ市近郊在住のジョエル・モンセラテさん(49)。

8年前に発症し、全身の不随意運動のため、食事や睡眠もままならない状態。症状がさらに悪化すれば、生命の危険もあるという。

比の神経性患者に

キンソン病などの脳外科院の手術は、脳の中に電極を埋め込み、脳の前部、前胸部にペースメーカーを埋め込み、電極を熱を加えて壊す手術が一般的だった。徳大病院は、電気刺激によって神



国内2例目のルーバック病手術について説明する徳島大学病院の梶龍児神経内科長(左)とフィリピンから同行した医師(右)同病院

脳に電極埋め込み刺激

経の働きを改善する難度の高い方法で行う。国内では2009年、東京都内で軽症患者に初めて実施され、今回が2例目。

徳大病院では、梶龍児神経内科長を中心とする研究グループがフィリピンの国立小児病院と共同研究を進め、07年にルーバック病の原因となる遺伝子を発見。その後もフィリピン国内で調査し、症状が重く、手術の希望が強いモンセラテさんに手術を行うことにした。国際貢献と研究の一環のため、手術や入院の費用は無償とする。

梶教授は「日本人男性とフィリピン人女性の結婚が増えており、その子どもが発症する恐れがある。治療法を確立し、病気の解明に寄与したい」と話している。

(河野隆寛)